

## III-6

### ハンドヒーリングが奏功した統合失調症と放射線性潰瘍の1例

○豊田 美都<sup>1)</sup>, 後藤 牧子<sup>1)</sup>

1) 太陽の丘クリニック

#### 【背景】

統合失調症は、認知・思考・感情障害などがみられる精神疾患であり、慢性に経過し、非常に治療に苦慮する症例も散見される。また、放射線性潰瘍は、放射線により皮膚と周囲の組織や血管がダメージを受けてできる潰瘍で、非常に難治性であり、通常は放射線の影響を受けた部分を取り除き、欠損部分を補うために移植術が行われる。今回、ハンドヒーリングによる統合失調症と手術不能例の放射線性潰瘍の改善例を経験したので報告する。

#### 【方法・結果】

症例1：19歳女性。13歳より不登校となり、その頃より手洗いが頻回になった。高校は通信制へと進学、平成26年6月（17歳）より、奇異なしぐさや思考途絶、強迫行為、数時間にも及ぶ自傷行為が続き、薬物療法を行うも改善が乏しかった。平成26年10月よりハンドヒーリング療法を開始、徐々に落ち着きを見せはじめ、意志疎通も改善。3か月後には穏やかに趣味に打ち込めるようになり、現在は（19歳）普通の生活ができるようになっている。

症例2：74歳女性。37年前に子宮癌に対して放射線治療を受けた。平成26年12月末から仙骨部に深さ最大5cm、ポケットを有する潰瘍が出現、疼痛と悪臭を伴う多量の浸出液を伴っていた。形成外科にて精査の結果、腸と骨にも放射線の影響があり手術はできないと判断された。平成27年3月より1日1回～2回の洗浄とハンドヒーリング療法を併用したところ、創傷治癒が進み、潰瘍は閉鎖した。

#### 【結論】

ハンドヒーリングは、副作用が一切ない治療法であり、現代医学で難治する統合失調症や放射線性潰瘍に対して有効である可能性が示唆された。